

■ドイツ：大手 RWE、原子力に割り当てられた発電量の他社売却を検討

2018年5月15日付の報道によると、独大手エネルギー事業者の RWE は同社が保有する原子力発電所に割り当てられていた残存発電量（270 億 kWh 相当）を他社へ売却することを検討していると同社財務担当役員のクレッバー氏が同日、語った。先週の報道によると、連邦政府が作成した法案に基づき RWE と同じく独大手エネルギー事業者のバッテンファルは将来、同国の原子力発電の完全廃止決定に対する財務的補償を受けることになることとされていたが、ドイツ連邦環境省は補償の代わりに未使用の残存発電量を他社へ売却するオプションも両社に提案していた。2002 年の原子力法では、各原子力発電所に 2000 年以降発電できる発電電力量（残存発電量）が規定され、その発電量を使い切った原子力発電所を順次、閉鎖することになっていたが、2011 年の原子力法の改正により、RWE とバッテンファルは残存発電量を使い切らない内に原子力発電所を閉鎖することになったため、未使用分の残存発電量に対しては補償を受ける権利があるとの判決が 2016 年に下っていた。